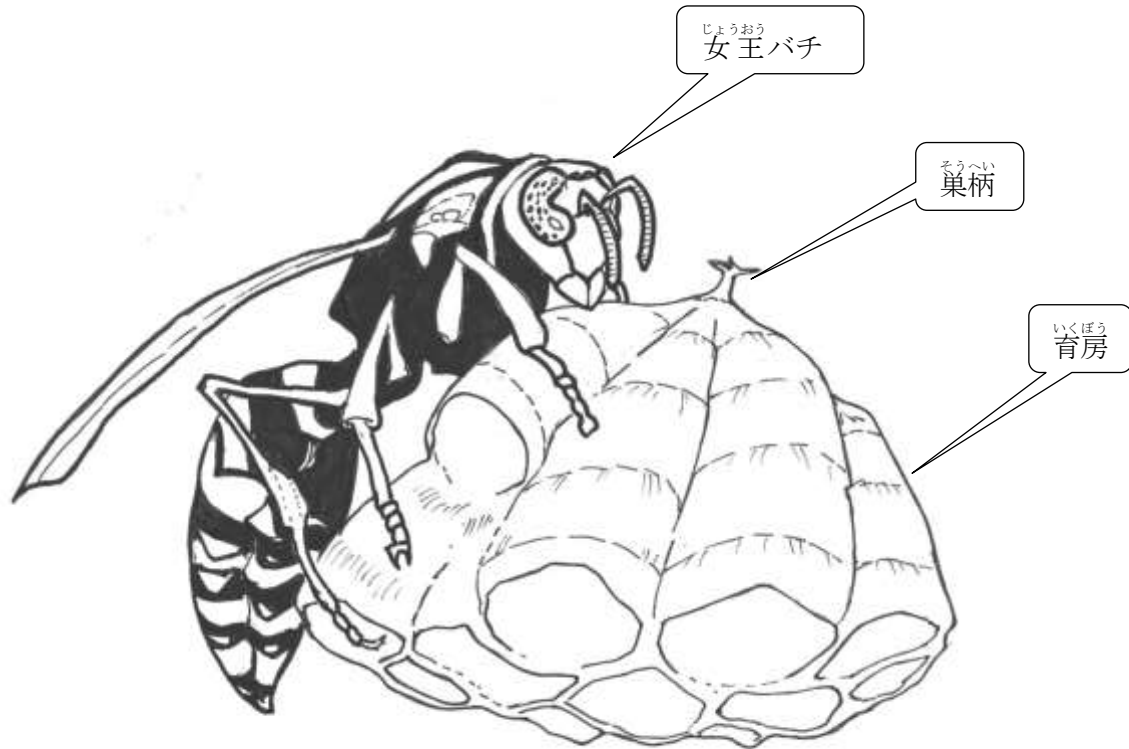


花ちゃん・オー君・モンタ博士・ミツバチのかくごドットコム

国立市立国立第七小学校

平成29年7月14日 NO.37 (437)



モンタ博士「きのうの復習になるけど、六角形の育房がたくさんならんだアシナガバチの巣は、おうちのまわりでもよく見ることができる巣だね。」

花ちゃん「ハチの巣というと、アシナガバチの巣を思い起こすことが多いですね。」

モンタ博士「そうだね。みんながよく見るのは、アシナガバチとスズメバチの巣だね。」

ミツバチの巣は、またちがったものなんだよ。」

オー君「ミツバチについては、以前、『国立てくてく』でも紹介してくれましたね。」

モンタ博士「そのとおり。よく覚えてくれていたね。うれしいね。ミツバチのお話1・2・3とあって、平成26年の『国立てくてく2』のNO.96・97・98を見るといいでしょう。」

花ちゃん「今度見てみます。ところで、アシナガバチの巣は、どうやって作るのですか。」

その前に、どんなものを使って作るのですか。」

モンタ博士「いい質問だね。まず、アシナガバチは、木の枝の皮や木材のささくれ、植物

の葉に生えた毛などのいろいろな植物繊維を口に入れて、自分の唾液とまぜることで、巣の材料にするんだよ。」

花ちゃん 「それを女王バチ、つまりお母さんバチは1匹で全部するのですか。」

モンタ博士「そのとおり。とても働き者なんだね。」

オー君 「植物繊維を材料にするというのは、和紙と同じような作りということかな。」

モンタ博士「そのとおり。よく気がついたね。オー君はえらい！」

花ちゃん 「その後、どうなるのですか。」

モンタ博士「アシナガバチは、まず女王蜂が少ない育房の巣をつくって産卵するんだ。

そして、自分の子供である働き蜂が育ってくると、共同で巣を大きくするけど、その頃になると女王バチは、産卵に専念するんだ。この作業をするのは、冬眠をして新しく生まれた女王バチだけなんだ。つまり、女王バチはとてもえらいのさ。」

オー君 「へえー。そうなんだ。ハチの巣を見ると、1本の柄がありますね。」

モンタ博士「それを巣柄というけど、その下に育房をぶら下げるようにしてできてるんだ。」

花ちゃん 「まずはじめに、その巣柄というのを作るのですね。」

モンタ博士「その巣柄を作るのが大変なんだ。何もないところから、何度も材料をもってきて、一生懸命に作るんだね。接着剤なんてないのに、自分の唾液と植物繊維、さらに木のヤニなども使うらしいよ。ともかく、大変な作業なんだね。」

オー君 「育房というのは、だいたいが下を向いていうようですね。」

花ちゃん 「これも何か意味があるようですね。」

オー君 「そうか！わかった。育房の口を下に向けることで、雨にぬれず、ぶら下がる巣は、アリなどの進入を防ぐようにできてるんだ。」

花ちゃん 「ハチってすごいんですね。いろいろと考えているんですね。」

モンタ博士「さらに、ハチの巣には、アリなどの他の生き物たちが嫌うような物質をつけたりもすると言われているんだよ。」

オー君 「へえー。すごいんですね。ハチの世界ってとてもおもしろいですね。」

モンタ博士「そうだね。生き物の世界は不思議でいっぱいということだね。」